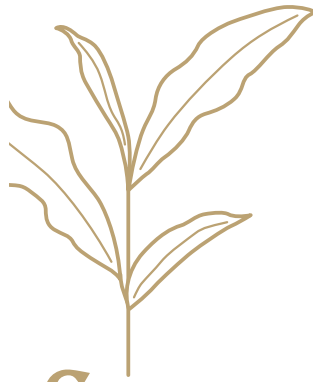




# Second Flash

Nadegata Instant Party

HIRANO Mami

MATSUMOTO Kazuko

MIYATA Atsushi + SASA Moe

# Second Flash

セカンド・フラッシュ

2019.11.3<sub>(日・祝)</sub> — 2020.1.5<sub>(日)</sub>

- 3 呼吸する美術館 日比野克彦
- 6 はじめに

Artwork

- 12 Ndegata Instant Party
- 18 平野真美
- 24 松本和子
- 30 宮田篤+笹萌恵

Events

- 37 出品作家4組のリレートーク
- 43 カジュアルトーク 再会！松本和子×北方町の方々
- 48 カジュアルトーク Ndegata Instant Party × 平林恵、福井清治
- 54 紅茶を楽しむTea Party！ワークショップ
- 55 平野真美×ナンヤローネ アートツアー 信頼できない語り手
- 56 宮田篤+笹萌恵 おはなしあそび微分帖

Commentary

- 58 ファースト・フラッシュの関係者より、セカンド・フラッシュによせて
- 60 アートプロジェクトは転生する。  
—生活から美術館に— 山下里加
- 62 セカンド・フラッシュとは 鳥羽都子

呼吸する美術館

息を吸って、息を吐く、息を吸って、息を吐く……。

人は1日に2万回くらい呼吸をしているらしい。呼吸をするたびに体内は活性化される。生きていく上で必要な酸素を体外の空気から取り込み、体外に二酸化炭素を吐き出していく。

体内を美術館、体外を美術館外と例えてみると……。

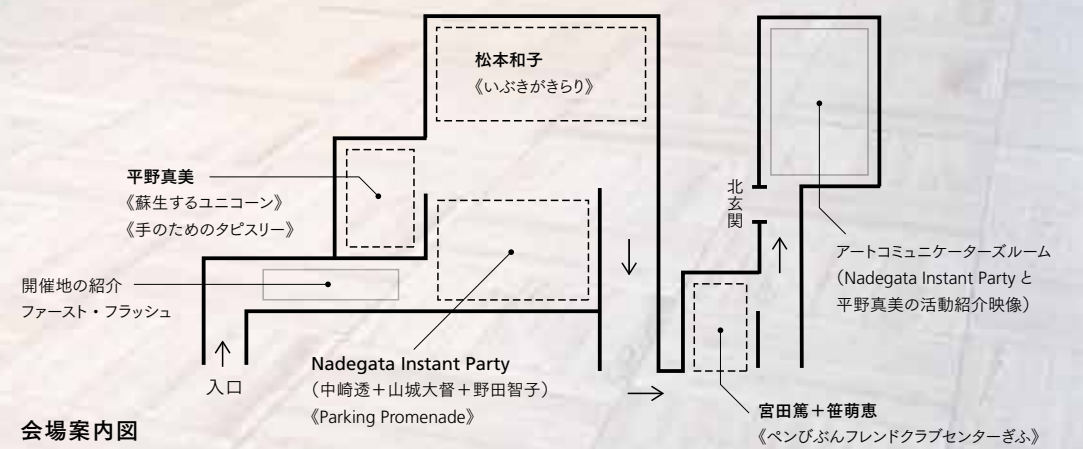
美術館で行なっている活動を美術館の外で行ない、外で行なった活動を再び美術館の中で展開する。「吸ってー、吐いてー、吸ってー」である。この行動は、人で言うならば生きていく上で、そして成長する上で必要な自然なる行為であり、これはきっと美術館にとっても同様ではないだろうか。

「セカンド・フラッシュ」は、美術館という生命体が現代社会環境の中で、健全に生き続け、進化し現代に生きている人たちと共生していこうとする中で必然的に、本能的に行なわれた行為、活動であった。（本能とは個人のものではなく、とはいえ個人の中にあるもの）

この呼吸を今後も続けていくことが次なる時代の美術館の姿を産み出していくには大切であると私は考えています。

（無呼吸症候群にならないようにしないとね……。）

岐阜県美術館長 日比野克彦





### セカンド・フラッシュ (second flush)

紅茶の収穫期を表すことば。

春一番に摘まれるのが、瑞々しくさわやかなファースト・フラッシュ (first flush)。清らかな風味のファースト・フラッシュの次に摘まれるセカンド・フラッシュは、芳醇で豊かな味わいが特徴で、甘味や芳香、コクも増すと言われる。

flushとは、「芽吹き」「ほとばしり」。作品や各開催地のきらめきをイメージさせる「閃光<sup>せんこう</sup>」「ひらめき」のflashと音を重ねた。

## はじめに

岐阜県美術館は、改修工事のための休館を機に、館外でのアートプロジェクト(アートまるケット)やアーティスト・イン・レジデンス型事業(AiM)に取り組みました。リニューアルオープン特別展の一つとして開催されたセカンド・フラッシュ展では、館外企画に向き合った4組の作家が、葉が生い育ち、香り立つように、美術館で新たな展示を組み立てました。

今、多様な人々が生きる社会の拠点として、美術館が果たす役割はますます大きくなっています。アートとは、未来を予見し、問題提起をするもの。人々や価値観を繋ぎ、場をつくることもできます。休館中の試みを「ファースト・フラッシュ」と位置付け、「セカンド・フラッシュ」展は、サイトスペシフィックな表現を美術館でいかに結晶化するか挑戦であり、あの特別な出来事を分かち合いたいという願いを込めました。

時と共に熟成し、収穫された「セカンド・フラッシュ」が醸し出す味わいを、この小さな冊子にとどめることができれば幸いです。

# Second Flush

## アートまるケット

アートまるケット

岐阜の言葉で「まみれる」を意味する「まるけ」に、市場を意味する「マーケット」「マルシェ」を掛けた造語で、岐阜を“アートまるけ”にして、アートによる集いや交流を生み出すことを目的にしている。

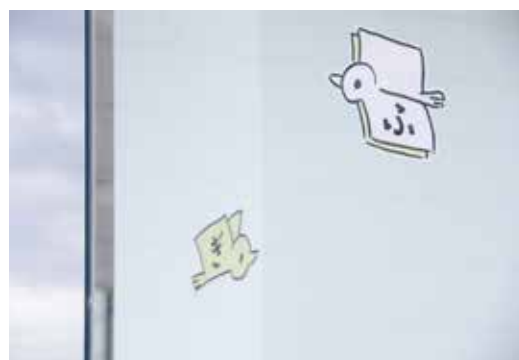
2015年に始まり、県内の教育機関・福祉施設等と連携し、日比野克彦館長ディレクションによって美術館の新たな魅力や出会いを引き出してきた。改修休館中の2018年には、館を飛び出し、養老公園を舞台に地域資源を掘り起こすプロジェクトを展開した。

## アーティスト・イン・ミュージアム

アーティスト・イン・ミュージアム(AiM)

これまで主にワークショップの会場として使用してきた岐阜県美術館の実習棟(現:アトリエ)をさらに活用するために、2016年度から始まった。作家が美術館や県内の施設に滞在し、公開制作やワークショップを開催する。作家と出会い、作品制作という創造の場に立ち会うことで、完成された作品の鑑賞から感じるものとは違う感覚を得てもらうことを目的としている。





# Artwork





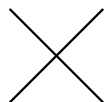
アートまるケット2018

## Nadegata Instant Party 養老公園プロジェクト Parking Promenade

設営 | 2018年9月18日～

作家現地制作 | 2018年10月1日～12日

会期 | 2018年10月13日～11月25日



### 養老公園

Yoro Park

東海圏と近畿圏の接点、広大な濃尾平野の西端に位置する。名瀑「養老の滝」を中心とした養老山麓に広がる都市公園。県営都市公園のうち最も歴史が古く、1880年開園。荒川修作とマドリン・ギンズの思想を身体で直接体験できる建築的作品《養老天命反転地》や、スポーツ施設を備え、四季を通じて自然のなかで憩える場となっている。

### Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)

(NAKAZAKI Tohru + YAMASHIRO Daisuke + NODA Tomoko)

2006年より活動を始める。「場」が変化する過程や体験を重視し、映像や演劇的手法などを組み合わせる作品で高く評価される。主な展覧会に、「24 OUR TELEVISION」(国際芸術センター青森, 2010)、「あいちトリエンナーレ2013」、「ウソから出た、まこと—地域を超えていま生まれるアート」(十和田市現代美術館, 2019)など。

2016年秋、岐阜県が、「岐阜県都市公園活性化基本戦略」を策定し、「体験型アート展示やトリエンナーレ」や「岐阜県美術館と連携した実践研究活動」等を謳ったことからそれを手掛かりに美術館が連携の可能性を探り企画が動き出した。

Nadegata Instant Partyは、養老公園が観光やレジャーの地であることにインスピレーションを得て、解放感溢れる作品を制作した。



「アートまるケット2018 Nadegata Instant Party 養老公園プロジェクト」記録誌(PDF)

### Artist Statement for Second Flu/ash

2018年秋に養老公園にて制作した《パーキング・プロムナード／Parking Promenade》。荒川修作+マドリン・ギンズ《養老天命反転地》に隣接する「調整池」と呼ばれる窪地を舞台に、10台の車を運び込み制作しました。遊歩道を巡りながら配置された18のインストラクション(指示書)から、身体と思考の体操のような行為を誘発する作品となりました。インストラクションのリードコピーは、すべて荒川修作のインタビューの言葉から引用しています。インスタレーション

や配色なども含め、ある意味では《養老天命反転地》への壮大な捻れたオマージュ作品とも解釈できます。今回のドキュメント展は、映像、写真、オブジェクト、サインで構成しています。中央の7mのテーブルには、インストラクションとドローイング、会場内に配置したナデガタ三人によるエッセイとそれぞれの配置図がまとめられています。時間があればぜひのんびり眺めてみてください。

Nadegata Instant Party

## Parking Promenade

Human Driving School

—わたしがたわしで死なないための18の教習—



①この身体は使いようによって、どんな風にでもなるんじゃないか



②一番いいのはね、動物のように、歩くことですよ。一番小さなマッスルを使う



③荷物は、これぐらいですよ



④「新しい常識を作らないといけないんだ」って言ったんだ



⑤身体を中心にやってるんですよ



⑥天から授かってるもんじゃなくて、全然別なことしてるんだ



⑦例えばそれを、言葉にできないわけ



⑧どれぐらい我々の科学は、間違った世界に進んでしまったっていうことを、泣きそうになって話してたんです



⑨「泣いてるんだ」って言うでしょ、赤ちゃん、生まれたての。あれは、ほとんどの赤ちゃんはね、「1人にしてくれ」って言ってるの



⑩もう普通の、普通の人間ですよ



⑪ふらふらしてんですよ。30分ぐらいふらーってして、戻って行く



⑫ほんとに不思議なやつでしたよ、彼は



⑬傍へ行くと、逃げてっちゃいますけどね



⑭もうあの頃ね、芸術は駄目だってことは知ってたんだよ、僕は



⑮あのね、駄目だったらもう、すぐ帰っちゃおうって思ってた



⑯それから、「実際、永遠に生きたい」って言ったらね



⑰「明日来たら、何かあるよ」



⑱本当に起こってるけれど、それを証明する科学がないの、今のところ

『18 の“Practical Training”』のテキストは、《養老天命反転地》の作者である美術家荒川修作氏の言葉を一部引用しています。引用元:「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ」より「荒川修作オーラル・ヒストリー」、由本みどりと富井玲子によるインタビュー、2009年4月4日 ([http://www.oralarthistory.org/archives/arakawa\\_shusaku/interview\\_01.php](http://www.oralarthistory.org/archives/arakawa_shusaku/interview_01.php))





## Nadegata Instant Party Parking Promenade

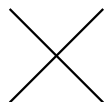
ナデガタインスタントパーティ(中崎透+山城大督+野田智子)  
《Parking Promenade》 2018-19  
写真、木材、映像他







## 平野真美 Meets 岐阜県立岐阜盲学校



## 岐阜県立岐阜盲学校

Gifu Prefectural School for the Blind

眼病のために光を失った元岐阜尋常中学校英語教師の森巻<sup>けん</sup>耳とイギリス人宣教師のA・F・チャペルが、1894年、盲人教育のために岐阜聖公会訓盲院を設立したのが岐阜盲学校のはじまりである。

現在は、小学部、中学部、高等部(本科普通科、本科保健理療科、専攻科理療科)で、約40人の児童生徒が学んでいる。

## 平野真美

HIRANO Mami

1989年生まれ。岐阜県出身。ユニコーンの骨格・内臓から毛皮まで、身体を構成するあらゆる部位を精巧につくり、生命維持装置をつなぎ、蘇生を目指す作品をライフワークとする。主な展覧会に、「Art Award IN THE CUBE 2017」(岐阜県美術館, 2017)、「2018 年のフランケンシュタイン バイオアートにみる芸術と科学と社会のいま」(EYE OF GYRE, 2018)、など。



「AiM 平野真美 Meets 岐阜県立岐阜盲学校」の記録

## Artist Statement for Second Flu/ash

滞在制作前から、一緒に授業を受けたり昼休みに遊んだり、手紙をもらったり鍼を打たれたりしながら視覚障がいについて知っていった。みんなが図工の授業で作った作品たちは、その唯一無二さに障がいという言葉が頭から完全に抜けてしまうほど個性が溢れ、行く都度増えていく作品たちを見るたび衝撃を受けた。

見えない世界ではなく、そこにあるはずなのに「見えていない世界」について思いを馳せた。視覚優位になりがちな制作のなかで、私にどれだけの見えていない世界があったのか、そして見えていない世界にいるはずの生き物たちのことを思った。

同じアーティストとしてみんなを知りたい、一緒に作りたい、そして作品同士で繋がりたいと思った。そうして作った生き物は、頭蓋骨はピンクと青で、葉っぱの羽と、桜の模様の角と、海を渡れる尻尾も生えて、心臓が二つできた。その心臓は、一度は他の臓器と一緒に生き物のなかにしまっ

たが、なんだか決まりが悪くて一つを取り出した。引用したリルケの詩は、「蘇生するユニコーン」のことを言っているようにも、盲学校のみんなの姿勢を伝えているようにも感じる。読んでみて、見えていない世界を見てほしいと思う。

平野真美

## Activities of First Flu/ash

## 岐阜盲学校での公開制作・授業・作品展示

① 初めて盲学校に来た日に見た2人の生徒が作った2つの太陽。太陽を球体の星として立体的に捉えている。形や色に日向にいるときの暖かみを感じる



② 盲学校の生徒に渡すため初めて打った点字の手紙



③ 滞在制作が始まる頃の図工室入口



④ 滞在制作に合わせて作り直していたユニコーンの内臓



⑤ 図工室にユニコーンが運びこまれた日(2018年7月25日)



⑥ 図工の授業で児童生徒とつくった生き物の骨の色は鮮やか



⑦ 生き物を作る授業のあと、架空の生き物を自分で考えて見せてくれた



⑧ 生き物の身体にしまう前の内臓たち



⑨ 生き物につけることになった最初の羽根(このあと葉が枯れても形を保てるよう、羽根を作り直してくれた)



⑩ 盲学校の文化祭で児童生徒が描いてくれた展示のタイトル



《蘇生するユニコーン》は、非実在の生物であるユニコーンを制作によって実在させ蘇生する試みであり、その過程を発表・アーカイブ化する個人のプロジェクトである。

骨や内臓、筋肉や皮膚など、生物を構成するあらゆる要素を制作することで「実在」を目指し、同じく制作した肺に人工呼吸器をつなぎ呼吸をさせることで「蘇生」を目指す。

おお これは存在しない獣。  
人びとは実際には知らぬまま それでもやはりこの獣を——その歩み そのたたずまい そのうなじ、またその静かなまなざしの光までを——愛してきた。

なるほど存在してはいなかった。だが人びとが愛したから生じたのだ、一頭の純粋な獣が。人びとはいつも空間をあけておいた。そしてこの澄んだ 取っておかれた空間のなかで、それは軽やかに頭をもたげ そしてほとんど

存在する必要がなかった。人びとは穀物ではなく いつもただ存在の可能性だけでそれをはぐくんだ。そしてその可能性がこの獣に強い力をあたえ、

それは自分のなかから額に角を作りあげたのだ。一本の角を。

『リルケ全集 第5巻 詩集Ⅴ』  
塚越 敏監修／河出書房新社／1991年7月30日発行  
39頁(オルフォイスへのソネット／第二部／4)より抜粋

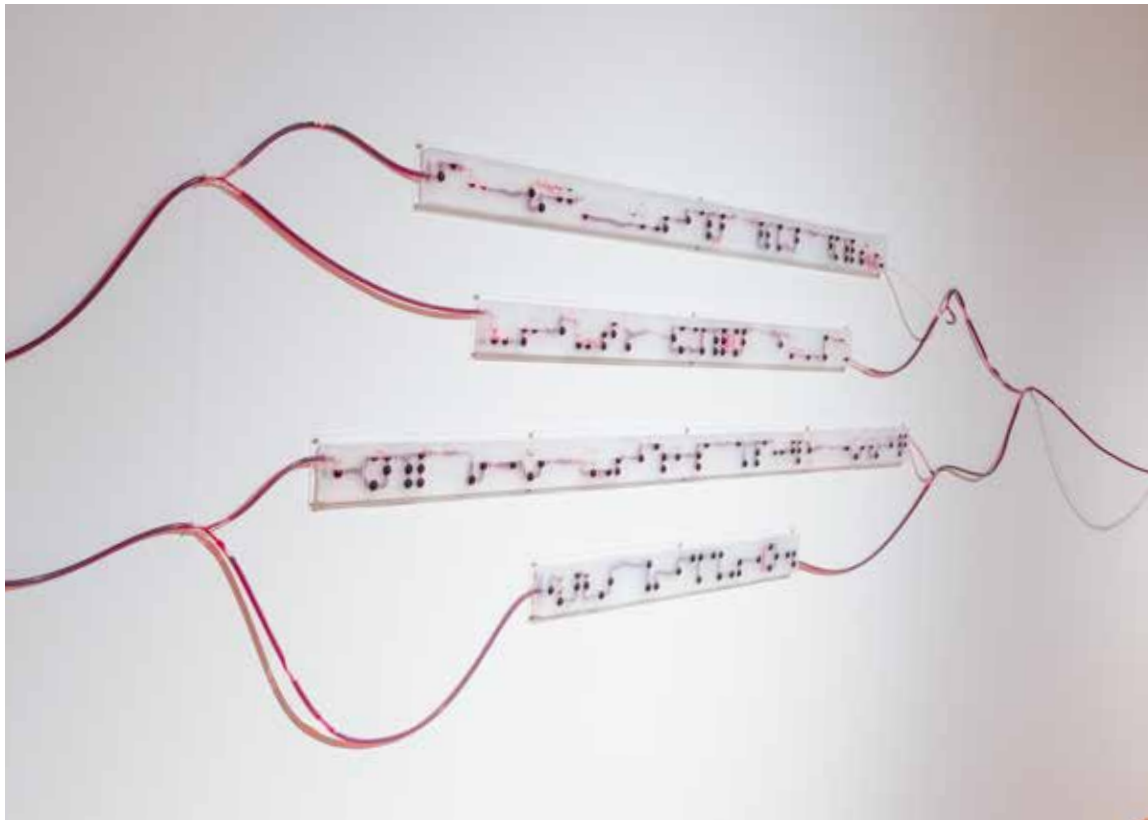




# HIRANO Mami

## Revive a unicorn / Tapestry for the hands

平野真美  
左下《蘇生するユニコーン》 2014- 樹脂、シリコン、ラテックス、人工毛、エアーコンプレッサー、送液ポンプ他  
中央上《手のためのタペストリー》 2019 シリコン、アクリル、送液ポンプ他



翼と尾ヒレを付け足して自由に駆け回る



少しずつクレヨンを削るようにして線を進める(鑑賞の際、角には触らなかった)



少しずつ粘土をつけ足して理想の形に近づいていく

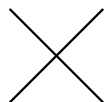
※下4つは盲学校の児童生徒が《蘇生するユニコーン》を鑑賞し制作した作品。キャプションは平野による。



## 松本和子 Meets 北方町生涯学習センターきらり

公開制作 | 2019年2月5日～3月17日

作品展示 | 2019年3月19日～31日

滞在制作 | 2019年9月22、23、28、29日、  
10月5、6、19日

## 北方町生涯学習センターきらり

Kitagata Lifelong Learning Center

500人収容の音楽ホール、会議室、創作室等からなる複合文化施設。県営北方住宅と連結した構造が特徴的である。磯崎新アトリエ設計、2006年1月開館。北方町の生涯学習の殿堂として、人々の文化活動を支え、子どもから大人まで幅広く利用されている。

\*2019年8月より「北方町ホリモク生涯学習センターきらり」に名称変更。

## 松本和子

MATSUMOTO Kazuko

1988年生まれ。大阪府出身。水や砂や石灰といった自然素材を使うフレスコ技法を用いて、きらめく光や吹き抜ける風、人の気配が漂う室内風景を独特の詩情で描く。主な展覧会に、「Art Award IN THE CUBE 2017」(岐阜県美術館, 2017)、「京都府新鋭選抜展2018」(京都文化博物館, 2018)、「温室の中で」(MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w, 2018)など。



「AiM 松本和子 Meets 北方町生涯学習センターきらり」の記録

北方町生涯学習センターきらり内に開設されていた「岐阜県建築情報センター」が2014年に立ち退いた後は、年に1度、町民文化祭に使われる遊休スペースを、制作・展示会場とした。松本が取り組むフレスコ画の主材料・消石灰が県西部から産出されることも縁となった。フレスコ画は、教会の壁画等に用いられる西洋の古典技法であり、建築との繋がりも深い。きらりの、大きく湾曲した天井、漆喰風の壁、降り注ぐ光などに、松本和子はあたたかい印象を受け、壁画にみたてた大型絵画を制作した。

## Artist Statement for Second Flu/ash

きらりの会場からは伊吹山の山並みが見える。独特なフォルムをもつきらりの天井と壁の曲線はその山並みからきているらしい。建物の所々に黄土色もしくは赤褐色の色壁が土を感じさせるザラザラな質感とともにあしらわれていて、それ以外は漆喰を思わせる白い壁と大きなガラス窓で構成されている。外から差し込む光がそれぞれの曲面に映り実に豊かな表情をみせていた。わたしが扱うフレスコは、古くから城や教会などの壁画として描かれ、建築と強い

ながりをもつ絵画技法である。漆喰が乾かないうちに水で溶いた顔料で描くという技法で、今回の制作では伊吹山の麓・大垣で採れた消石灰と砂を譲っていただき、水と合わせて練った漆喰をベースに使用した。場の持つ特性に呼応し、そこで出会った景色や素材、そして地域の人々との交流を紡ぎながら、また、当時は生まれて5か月だった小さなわが子の息吹きを感じながら描いた作品だ。

松本和子

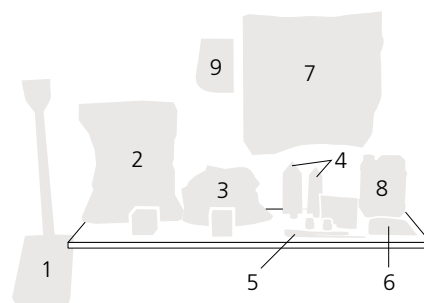


## Materials of First Flu/ash

金生山で採掘・製造された消石灰と砂を提供していただき、フレスコの漆喰(描画層)と下地に使用しました。今回の作品制作には消石灰は約50kg、砂は約100kgほど使いました。

協力: マルアイ石灰工業株式会社

大垣市赤坂の金生山(かなぶやま 通称: きんしょうざん)は、良質な石灰岩(炭酸カルシウム)、大理石(結晶質石灰岩)の産地である。



1. 金生山の砂を運ぶ時に活躍したスコップ。
2. 金生山の消石灰。フレスコの漆喰と下地に使用。
3. 金生山の砂。フレスコの漆喰と下地に使用。
4. 漆喰を左官するときを使う木鏝とステンレスの鏝。
5. 描画に使用した顔料と筆と刷毛。どちらも耐アルカリ性のものを使う。
6. ストラップに使用した膠。寒冷紗を膠で貼り付け乾燥させた後、絵の表面を剥がしとる。
7. ストラップに使用した寒冷紗。上手く剥がせなかった絵の一部が残っている。
8. ストラップの裏打ちに使用した建築用の接着剤。耐水性。
9. ストラップの裏打ちに使用したオーガンジー。

# MATSUMOTO Kazuko

## A breath of light shines

松本和子  
《いぶきがきりり》 2019  
壁材に漆喰・顔料・布、ブオンフレスコ技法、ストラッポ技法  
9100×2730mm(壁面のフレスコ作品のサイズ)





オーガンジーの裏から撮影



## 宮田篤 + 笹萌恵 Meets 岐阜県図書館

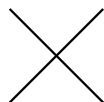


photo 遠藤俊治

## 岐阜県図書館

Gifu Prefectural Library

1934年創立。1995(平成7)年7月7日、現在地に新館開館。ミッションを「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます」とし、蔵書は約100万冊。加えて約15万点の地図資料を収蔵。郷土作家、健康、子育てや地図などにまつわる講演会や講座、企画展も行っている。なお、隣接した美術館と合わせたエリアは「県民文化の森」と名付けられている。

## 宮田篤 + 笹萌恵

MIYATA Atsushi + SASA Moe

2009年より活動を始める。お話の続きを地域住民と相談する連載マンガなど、“仕組みや仕掛け”によって生じる他者とのイメージのずれや重なりを作品のきっかけとしている。2011年から取手アートプロジェクトに参加。主な活動に、「あざみ野こどもぎやらい」(横浜市民ギャラリーあざみ野, 2015)、「音をかたちに、かたちを音に」(安曇野市穂高交流学習センター「みらい」, 2016)など。

岐阜県図書館の2階にあった「企画展示コーナー」を改修し、2018年より「企画展示室II」として、岐阜県博物館、岐阜県現代陶芸美術館、岐阜県美術館など県立文化施設の展示を、図書館でも展開することとなった。他者と関わりながら文字や本、お話づくりの要素を含んだ制作を行っている宮田篤 + 笹萌恵は、「夏休みの図書館自習室」をイメージして活動を行っていった。



「AiM 宮田篤 + 笹萌恵 Meets 岐阜県図書館」の記録

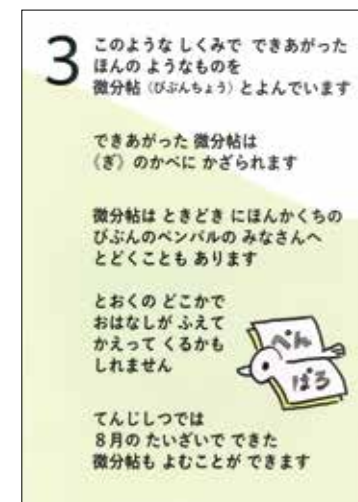
## Artist Statement for Second Flu/ash

8月の滞在では、図書館でいろいろな人と出くわしました。「出会う」ではなく「出くわす」がしっくりきます。絵本を借りに来たご家族、自習の息抜きの学生さんや、なんとなく毎日きてるおやっさん。図書館はわりと気軽に行ける場所のようで、その延長でわたしたちのひらいた場所にも足を伸ばしてくれました。滞在中にできたおはなしには、私たちが出くわしたみなさんとのやりとりが折りたたまれていきます。それはなぞのメッセージのようであったり、冒険的一幕

のようであったり、日記のようでもあったりし、そのどれもがかけがえのないものになりました。さて今回の《ペンびぶんフレンドクラブセンター ぎふ》では、文通をテーマにしました。8月の図書館のような、いまここで起こることとはまたちがう、のんびりとしたあそびです。あなたも封筒の中のだれかに出くわして、おはなしを折りたたんでみませんか。

宮田篤 + 笹萌恵

## 《ペンびぶんフレンドクラブセンター ぎふ》と《微分帖》の仕組み



## おすすめの《微分帖》をご紹介

P1,2,7,8 = Aさんが最初にかいた4ページ

P3,4,5,6 = それを読んだBさんが差し込んだ4ページ



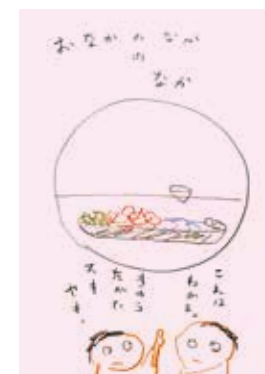
P1



P2



P3



P4



P5



P6



P7



P8





# MIYATA Atsushi + SASA Moe

## Pen BIBUN Friend Club Center Gifu

宮田篤+笹萌恵  
《ペンびぶんフレンドクラブセンター ぎふ》 2019  
紙、封筒、フェルト、プラスチックダンボール他

